

## 【メディア概要】

A4両面カラー 発行枚数未定 頒布は手配り・配置のほかフリーペーパー『Seien』2月号(1/20)に挟み込み

顔画像

一般質問キャプチャ

## 【タイトル】

深谷市議 **小林 真**

**読む議会**

フットノート&バックヤード

footnote & backyard vol.2 2022年7月～12月

text & design

## 【全体リード】

深谷市市議会議員・小林真の市政通信第2号。2022年1月の補欠選で市議になって取り組む、市民に近い議会づくりのための文字だらけの発信ツールです。

「フットノート」は本の欄外に小さな字で書いてある「脚註」、「バックヤード」は店舗や施設の一般利用者が入らない裏側(英語の和製用法だそう)。公式の「議会だより」や議事録に書ききれない註釈や、議席間で交わされたことばを届けて市政を考えるきっかけにします。「バックヤード」は議会に入った頃、となり議席の石川議員の「そういうこと(細かいこと)はバックヤードで議論するんですよ」という話をヒントにしました。(文中の名称は通称、文中発言は記憶からの再構成で正確ではありません。発行・頒布に政務活動費を利用しています)

## 【9月・12月議会の一般質問】

1年間全4回の議会一般質問をしました。市民の声を議会に届け、議員自身の考えを示す貴重な機会。議場ではよく馬場議員が「自分の時間なんだから、しっかり、好きにおやりなさい」と声をかけてくれました。

傍聴やネットで聞いた人からは「質問になっていない、自分の考えばかり話している」とよくいわれます。それで12月には、英語では「ホワイ・ドント・ウィ～?」「シャル・ウィ～?」の一人称複数疑問文で提案を表すことを例に質問をスタート。今回は質問内容でなく、訴えたかった提案を小見出しにしました。

あるものを使って  
「小さいいいこと」  
をたくさんつくろう

9月、12月両方で、廃用となった消防署旧藤沢分署の利活用を提案。造50年を過ぎ解体予定ですが、ずっと近くでみてきたカフェ運営者がノスタルジックな雰囲気を持つ「地域のアイコン」をカフェを中心とした商業施設として利用したいという声を知り、なんとか使えないかと質問しました。時期を同じくしてオープンした花園アウトレットのようなインパクトはありませんが、こうした小さなスポットの集まりがまちをおもしろくし、市が強調してきた観光の回遊性も高めます。

企画財政部の答弁は「旧耐震基準の建造物は解体の方向。状態によっては利活用を進めるが、旧藤沢分署はこのままでは老朽化が激しく安全利用が担保されず、診断や補強に費用がかかりすぎるため現実的ではない」。建物の状態だけでなく、市街化調整区域であることなど課題は少なくありません。企画財政部、消防本部の説明は、親身でいねいでした。みなさん、あんな建物がカフェになったらいいね、カッコいいねと口を揃える。でも、実現はむずかしい。数年前まで使ってたのに...と思いつつ質問を終え、年が明け、予定通りマイナス入札が公示されました。

わたしたちに  
「親しんだ景色」  
を守っていこう

9月議会の質問です。きっかけは小川町でメガソーラー建設に異を唱えるグループの方からきいた、市内川本地区で稼働中の施設のこと。自然環境や治水への影響など多くの問題が指摘されていますが、二酸化炭素排出量＝温暖化防止には効果が大きく議論が分かれます。県内でも制定自治体が増えてきた、行き過ぎた開発を防ぐ「メガソーラー条例」を考えないかという問い。2018年策定のガイドラインで調整をはかっているとの回答でした。

用地は丘陵、林野が多い。妻沼低地明戸地区で育ったわたしは、慣れ親しんだ田園風景のことを考えました。何もなければいいこの農村が、銀色のパネルだらけになることを防げないか。市全体の「景観」はどの部署で考えるのかという問いに、まちなみは都市整備部、緑を守ることは環境水道部とのこと。わたしも「考えてみればそうですね」と返しましたが、しっくりいかない感じは12月議会の質問につながります。

社会への参画で  
「それぞれの子どもの考え」  
を育てよう

これも9月議会。横串型の模索といわれる施行直前の「子ども基本法」や「子どもにやさしいまちづくり(CFCI)」に関する新聞記事をきっかけに、6月議会で提案した教育の個性化や協働化を考える問いにしました。この質問に関して、ユニセフ日本型CFCI実践5自治体のひとつ東京町田市を初めて単独視察したのも大きな経験です。

議会でも、新設の子ども館のあり方を議論中でした。こども未来部の回答は国や他自治体の取組を参考にして研究したいとのこと。少子化の時代、それぞれの子どもの主体的な考えを育てる教育を市民との協働で創造したい。そう思っています。

今の深谷の文化を活かして  
「市民みんなでまちづくり」  
をしよう

3月議会で質問した区画整理と旧七ツ梅酒造のこと。そして協働と文化・歴史を総合した質問を12月に行いました。

まず市民協働事業提案制度が初期に比べて事業数が減っていて、しかも美化・緑化に偏っていること。これは2017年以降は独自の予算がつかなくなったことなどが理由だそうです。さらに

は市民提案は小さいけど多い敷居の低いものか数は少なくとも大きいものをと考えるかという問いで、これには協働推進部から数の問題でなく中身の問題という回答がありました。

次に過去の市民参加のまちづくり会議がどう活かされているか。ここで視点を変え、洪沢栄一、畠山重忠とまちづくりのテーマが百年以上前のことがらにとどまっているように感じられること。そしてたとえば21世紀の深谷をテーマにしたまちづくりを市民発で始めた場合、複数部署の参加は可能かという問いです。

さまざまな角度からの質問を「深谷カルソツ」や自分の書いたフリーペーパー記事を参考にしながら。回答を大ざっぱにまとめると、現在進行中のことがらをテーマにした市民発のまちづくり会議が提案されれば、複数の関係部署も参加したいというものでした。すでに旧七ツ梅周辺の人々と、楽しい作戦を練っています。

### 「議員カフェ」10月に行田開催

2月は羽生でも

「市民と議会を近づけたい」がテーマの「議員カフェ」は、選挙公報にあった「もんだいカフェ」の変形版。本庄NINOKURAで5月に始まり、8月に「自閉症」をテーマに再び本庄で、10月には第1回に参加した野本翔平議員主催の行田・牧禎舎で開催されています。2月には羽生で齋藤万紀子議員が計画中。

多角的に広がるテーマに、刺激を受けています。たとえば行田開催で秩父・清野和彦議員による会派結成の経緯、唯一の女性市議という齋藤議員の話には大いにヒントをもらいました。もんだいカフェもそうですが、遅れている編集版発信を完成させねばです。

### 視察&勉強会が続々と

コロナで中止が多かったという視察も増えてきました。市公式のものは、10月の産業建設委員会の香川視察(2泊)と12月議員クラブの戸田ポート視察。個人では9月議会の時に、東京町田市「子どもセンターまあち」をみてきました。

香川視察で議員団全員が驚嘆の声をあげたのが、ごみを燃やさないで固形燃料にする三豊市の「トンネルコンポスト」。12月議会で中矢寿子副委員長が、市内に計画中の「新清掃センター(仮)」での採用可能性を質問しました。「まあち」では体育館で中学生が3オン3バスケをプレーするすぐとなりで未就学児が遊ぶことの経緯。たんに禁止するのではなく、考えさせる運営が利用者である子どもに与えるものは大きいでしょう。

勉強会は11月に秩父の清野市議の誘いで「森林を活かす荒川流域自治体議員勉強会」に参加。現在はオンラインですが、行田・野本議員の誘いで「文化芸術自治体議員連盟(アーツ議連)」の議論もチェックしています。1泊だった前者では「関係者ガイドによる社会課題ツアー」というべきおもしろさを感じ、一般向けにも広げていければ社会的なインパクトはさらに期待できるでしょう。

それと大きいのは、市内・市外を問わず議員たちとの交流。香川の金毘羅参拝登山など、みなさんの個性がよく知れる楽しい時間を過ごしました。

### 「議員ライター」としての発信

この号を2月号に併配した「地域みっちゃく生活情報誌© Seien」の巻頭記事9月号「幸齢化社会」、11月号「コーヒーと日常」を「議員ライター」と表記して担当しました。とくに「コーヒー」では一般質問で取り上げた旧藤沢分署利活用の当事者をリポート。事業者の側から描くことで、より立体的に提示できたと思います。

12月末には、熊谷「NAOZANE」など県内グループ全誌掲載の知事ラグビー鼎談も取材・執筆しました。

### 議案の賛否から

2回の議会で他議員と異なる投票をしたおもなものは以下の件です。

1)ホフマン和窯、中んちの工事契約に反対:いずれも金額が高い。後者では反対討論を行い、文化財とはいえ災害多発の時代で高レベルな改修は必要ない、深谷瓦の業者を活用すべきと発言しました

2)インボイス制度中止意見書提出に賛成:石川議員の賛成討論のように制度のメリットは認めつつ、小規模事業者の不利が十分に考えられていません

【】

無所属・無党派1期目。1963年深谷市上増田出身在住。明戸中～熊谷高校～明治大学フランス文学専攻。学習塾／編集者・ライターから深谷・ゆめ☆たまご、風土飲食研究会、本庄・NINOKURA、熊谷・NPOくまがや理事として市民活動支援センター所長を経て2022年1月の補欠選で市議に。6歳男児の父で90歳の父親を介護中

〈開かれたことばと議会〉のために

一般質問はじめ、議会が終わってすっきりしないことは少なくありません。けど考えてみれば、すっきりしない方がいいと思い始めています。

すぐこたえが出ないから話し合う。そういうテーマだから、自分の思った結論が出なくて当たり前じゃないか。すっきりこたえが出るとしたら、どっかにうそやごまかしがあるのでしょうか。

一年過ぎて、議会の仕事で他議員とのバックヤードの大事さをよく感じます。そのことから12月議会では、意識して他議員の発言を引用するようにしました。石川議員の「連立方程式」や角田議員の空き家、言及しませんでした。永田議員の合併の歴史などは、「これからのヒント」に満ちていました。

わかった〈気〉になったらことばは閉じられていもう。そう思いながら、3月の議会のことを考えています。

2020年10月創刊号巻頭では  
Seien精神を受け継ぐオリジネーターを集めた

東大通りからパティオに抜ける人見周辺は  
主要施設が集まる藤沢のワシントンDC

議員宅から近い深谷BP沿「ぐる米ランド」跡の太陽光発電施設

「部室」の雰囲気。「まあち」のミーティングルーム

区画整理で移転した深谷シネマは  
日本初のNPO映画館

【QRコード】  
一般質問、議会だより  
ブログ、SNS

A3版印刷版をご希望の方はご連絡ください。お届けします。